

ダウン・ザ・テッシーオーペツ実行委員会

天塩川



完漕めざし意気込む参加者たち。2005年大会スタート地点の様子(写真右) 子どもからお年寄りまで、年齢を問わずに楽しめるのもカヌーの魅力。大会には家族やグループでの参加も多い(写真下)



日本最長のカヌーレースが、流域11市町村を一本に結ぶ。

カヌーの聖地・天塩川を下る ダウン・ザ・テッシーオーペツ

自然と環境に魅せられて 増え続ける参加者たち

石狩川に続く北海道第2の大
河・天塩川。流域にダムやえん堤
などの人工構造物がないこの川は、
中流域から河口までの1507キロ米(約
100マイル)をノンストップで下
ることができる、日本最長のカヌー
コースとして知られている。毎年8
月上旬になると、全国のカヌーイ
ストたちがこの地に続々と集まる。
カヌーツーリング大会「ダウン・ザ
テッシーオーペツ」の参加者たちだ。

天塩川流域の11市町村には、10
を超えるカヌークラブが存在する。
沿岸には、20カ所のポイントをはじめ、
温泉やキャンプ場などのアウトド
ア環境も整っている。美しい自然と
快適な環境。天塩川がカヌーの聖
地と呼ばれる理由は、ここにもあ
るのかもしれない。大会への参加
者数も年々増え続け、延べ330
0人を数えるまでになった。

「大会後のアンケートを見ると、
90%を超える方々が『満足した』
と答えています」。こう話すのは、
実行委員会事務局長の草野孝治
氏。「この自然に接することですり
フレッシュできた」「地元の方たち
の声援が嬉しかった」など、都会
にはない豊かな自然や、温かいふ
れあい感動する声も多く寄せ
られたという。

06年7月、実行委員会は4年ぶ
りに「ダウン・ザ・テッシーオーペツペ
シヤル」の開催を企画している。前
大会の参加を逃した人や前回参
加者たちからの、熱い要望に応え
ての再開催だ。「まずは、この大会
の開催と成功が最大の目標」と、
流域のスタッフたちは意気込む。

**100マイルの興奮と感動が
ふたたびよみがえる**

「大会の浸透とともに、徐々に一般
愛好者のツーリングが増えてきた。
また、観光ツアーの新メニューに、カ
ヌー体験が加わるようにもなった。
ここを訪れる人が増えれば、周辺キャ
ンプ場や温泉の利用や特産品普及
にもつながる。流域の市町村では、
そんな相乗効果も期待されている。

「北海道遺産である天塩川を生
かし価値を高めるのは、流域住民
の役割」と、草野氏。カヌーを通し
た「まちおこし」は、今まさに新た
な流れに乗ろうとしている。